

講義名	近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 江本 弘	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>① 現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。 本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>この授業は現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。わたしたちの暮らしのまわりや雑誌媒体では、日々さまざまな建築が生まれ、わたしたちの目に触れている。本科目は、そうした身近な現代建築がつくられる世界的状況を俯瞰的に理解するために、現代から逆行するかたちで近現代建築史を語りおこす。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. たいらじゃない床：石上純也「KAIT広場」（2020） 3. 平らな床で表現できるもの：伊東豊雄「せんだいメディアテーク」（2000） 4. ユニバーサル・スペースか、ローカル・スペースか：原広司「京都駅ビル」（1997） 5. ミースの名前はないけれど：日本設計「新宿三井ビルディング」（1974） 6. 近代／現代を切断する「父殺し」：磯崎新「大分県立大分図書館」（1967） 7. シブイ、ジャポニカ、ヴィラ・カツラ 1 8. シブイ、ジャポニカ、ヴィラ・カツラ 2 9. 機械の神：立原道造「ヒアシンス・ハウス」（1937） 10. 人見先生、しつれいします：ヴァルター・グロピウス「パウハウス校舎」（1926） 11. クリスマス・デコレーション：ブルーノ・タウト「DWBケルン展ガラスパビリオン」（1914） 12. 20世紀にさよなら：フランク・ロイド・ライト「ラーキン・ビルディング」（1906） 13. モリスとラスキンがようやく墓から出てきそうな回：ヴィクトル・オルタ「タッセル邸」（1893） 14. 講義のおわり、歴史のはじまり？：ジョセフ・パクストン「クリスタル・パレス」（1951） 15. 19世紀の建築理論へ <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>毎回配布する小レポート（60%）と期末レポート（40%）により総合的に評価する。レポートの課題内容については追って知らせる。</p>
教科書	<p>本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』</p>
参考書 参考資料	<p>日笠直彦『日本近現代建築の歴史 明治維新から現代まで』 江本弘『歴史の建設——アメリカ近代建築論壇とラスキン受容』</p>
履修上の注意	<p>講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。</p>
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 予習： 次回授業の該当年代にあたる建築物等について教科書で確認する。 復習： 講義内容の整理。関連文献（別途指示）の参照。</p>
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	<p>授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。</p>
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>ART-MA205L、AATDE203L</p>